



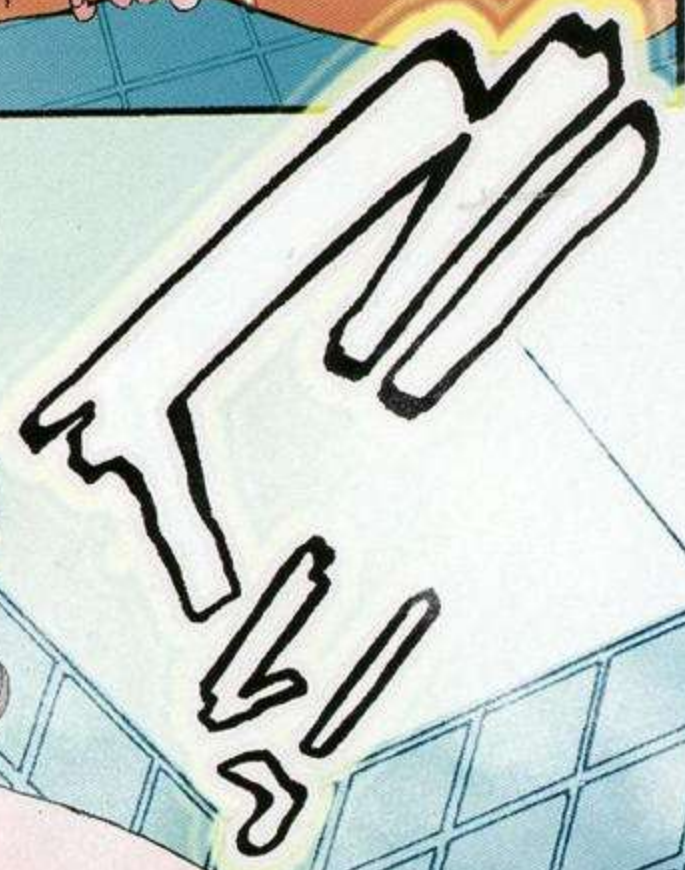
FOR ADULT ONLY  
**G+PROJECT 4**



よ  
っこ

楽しんで

緊張しなくて  
いいわよ



今とくつても  
気持ち良くして  
あげるからね♡

もっと強く  
こすりつけて  
いいのヨ

そうしたら  
私も一緒に  
気持ち良く  
なれるから♡







初めてなの？  
大丈夫よ

私が全部  
してあげるから♡

おしりが  
勝手に動いちゃう

…恥ずかしい

とつても  
気持ちいい!

んん：っ  
んん!!

…き  
気持ち  
いい!!

…お願い  
今日はずっと私に  
おち○ちん挿入てて  
ちょうだいね!

んん

んん

んん





ぐんっ!

もう戦術予報士  
なんて耐えられ  
ないの

はあっ  
あう

私のミスで  
何人もの人が  
死ぬなんて

強く!  
乱暴に  
して!!

あーっ



メチャクチャに  
して…全てを  
忘れたいの！

…私

今だけは  
ただの女に  
戻りたいの！

…あ  
でも腔内では  
出さないで  
ね♡



…んっ!!

ひよの代わりに  
もっろイイ事  
してあげるから

遠慮しないで  
イッパイ射精<sup>だし</sup>てね

今日はあなたの  
誕生日なんだから

特別に私の  
顔にぶっかけて  
いいのヨ♡

んんっ

ちゅっは

ちゅっは

ちゅっは

ちゅっは





はあ  
はあ  
次は安全日に  
膣内でいっぱい  
射精させて  
あげるから!

ごめんね!  
たが



あ

!!



お誕生日  
おめでとう

んんっ！

んんっ

ずいっとイイでしょ！  
少し休んだら  
また始めましょうね♡

20歳のお祝いは  
お酒なんかより  
こっちの方が



…はう

んん!!

…キラ様…

私をもっと  
もっと…見て

…下さい

でないとはは

…今夜も

こんな…

イケない  
…事を

闘いで  
疲れてるん  
ですもの

私がして  
差し上げ  
ますわ♡



気持ちいいですか？  
他にもして欲しい  
事があったら何でも  
言って下さいな

あーっ

あーっ



あーっ  
あーっ  
あーっ

…あ  
分かりましたわ  
胸に挟んで  
するのですね



…フレイさんの  
ような大きな胸には  
かないませんが  
精一杯頑張つて

みますわ  
…だから

…んっ!!

たろば

少しでいいのです  
…私の事を  
見て下さいな

…そうしたら私は  
ラクス・クラインは  
どんな恥ずかしい事でも  
いたします

たろば

たろば

…ふあ!?

キラ様が喜ぶなら  
私は…こんな事  
だって…!!

キラ

キラ







恥ずかしいですが  
嬉しいです...!!  
愛するキラ様の

...キラ様のっ

おち○ちんが  
私の膣内に  
.....!!

あ...ああっ  
そんなに足を...  
足を広げないで  
下...さい

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

…やっぱりまだ  
恥ずかしいすぎるので  
後ろから…して下さい

お願いです…  
ごめんなさい

んあ…あう  
そんなにお尻を  
高く上げたら…  
全部見えて  
しまいますう

ああ



嵐

気持ちいい  
ですか？  
もっともこと

キラ様が  
気持ち良く  
なるには  
どうすれば  
良いのですか

教えてください  
…お願い…!!  
何でもします  
からあつっつ!!

お姫様

お姫様



かまいませんわ!!  
射精して下さい...!!  
私の膣内に...!!

私の身体の中に  
キラ様の熱いのを  
ブチまけて  
下さいっ!!

私だけを  
見て下さい  
な.....

...私は  
キラ様になら  
何をされても  
構いません...

...だから  
私を...

ククルス・ドアニ

## 浄土作戦 <SCORCHED-EARTH STRATEGY>

宇宙世紀0079年に起った宇宙戦争。後に「一年戦争」と呼ばれるそれは、人類が歴史上に度々行ってきた戦争と同様に多くの悲劇を生んだ。開戦当初にジオン公国によって行われた、「ブリティッシュ作戦」もその一つだ。これは宇宙コロニーを南米ジャブローにある連邦軍本部に落とすことにより、壊滅・戦闘能力の打倒を目的とした大胆な作戦であった。しかし、それに先立ち、落下させるコロニー獲得のため標的になったサイド1、サイド2、サイド4への同時攻撃は、NBC兵器を使用した殲滅戦であった。つまり、これはそこに存在する敵戦闘力だけではなく、領土をも殲滅することを目的としている。さて、地球侵攻に移った公国軍はどういった作戦に移行していったのか、戦後の風評は大きく分かれている。非常に友好かつ紳士的であったとする声があるが、一方で残虐、無軌道といった声である。

占領地区において弾圧よりむしろ柔軟な政策をおこなっていたのは、地球方面軍司令であったガルマ・ザビ大佐であった。大佐は自らの官邸へ占領地区の有力者を招き、戦時下とは思えぬ豪華なパーティーを催していた。

戦争とは敵側の戦闘力の完全な打倒であるといわれる。これを概念的なものとして、間接的に敵の戦闘力が打倒すればよいとする場合、ガルマ・ザビ大佐の占領政策は戦術として評価されるであろう。しかし、地球侵攻における連邦軍の戦闘力の打倒は、ガルマ・ザビ大佐の政策のような穏便な形のものだけであったのか――。

結論から言えば、宇宙で行ったブリティッシュ作戦同様の過激な作戦が一部地域で展開されていたようである。無論、地球侵攻作戦実施の直前に締結された南極条約により、NBC兵器の使用は禁じられている。そのため連邦軍統治下における住民を虐殺する作戦は、通常兵器によって遂行されていた。ザクの中には対人用の散弾などを装備していた機体の存在も最近の調査で判明している。

このような作戦を浄土作戦と呼称する。浄土作戦にあつては、住民は潜在的な敵戦闘力と判別される。これは、住民のゲリラ化といった直接的な危険だけではなく、住民と敵軍の情報的な連携、物資の補給、政治的な反抗運動……これらは間接的に敵を利用することになる。この将来的な危険性を懐柔ではなく、殲滅によって封圧するのだ。

実際にはこのような地球侵攻作戦を行った部隊がどれほどの数に及ぶのかは、はっきりとしない。報告書などが書かれていたはずではあるが、オデッサ作戦後の地球撤退の際にほとんどのものが消失してしまったようである。現在最も有力な情報としては、極東方面で行われたククルス・ドアンの参加した作戦が挙げられている。これは戦後ペガサス級強襲揚陸艦(WB)の体験レポートをまとめる際にRX-78-2ガンダムのパイロット、アムロ・レイの証言で明らか

かになった。彼は行方不明機の調査の際に一機のザクに遭遇し、自機のコアファイターを隠されてしまう。アムロが目覚めた小屋には3人の子供と一人の少女。そしてジオンの脱走兵であるクルス・ドアンと出会った。ドアンは浄土作戦の残酷さに恐怖し軍を逃亡。戦争孤児の子どもたちと無人島に逃れ、共同生活していたという。

一年戦争終結から3年の月日がたった……。

「おまえがドアンだな」ドアンの前に急に現れた若者は、目を充血させ唾を吐いた。

「ちよっとおっさん、顔かせや」

その若者はドアンのシャツの胸元を掴むと、ぐいぐい引っ張ってくる。体格の良いドアンは若者の手を振り払うことは出来たが、それはしなかった。

一週間に一回ほどの割合で、ドアンは島から街に生活物資の買い出しに来ていた。買い出した物資をボートに搬入し終えて、翌朝の出航に備え簡易宿泊所に向かう道を歩いているところだった。路地から若者が現れた。夜八時を過ぎるとこの辺りに人通りはほとんどない。

「おっさん、ザクを持っているんだってなあ」

ドアンが曖昧な返事をするると若者はまた唾を吐いた。

「ザクの隠し場所を素直に吐かないと、痛い目を見るぜ」

「クランプに会わせろ」

ドアンの言葉があまりに意外だったらしく、若者は掴んでいたシャツから手を離れた。

「お前に指示を出しているのは、クランプって言う男なんだろう？ そいつに会わせるまでは、ザクのことを話す気はない」

若者は、この状況をどう対応しているのかわからないといった感じで、唾を路上に何回も吐いていた。結局、若者の運転する古ぼけたトラックに乗せられることになった。ドアンはもともとそのつもりだったので、動揺することはなかったが、若者はかなり鼻息を荒くして浮き足立っているといった感じだ。

古ぼけたトラックを発進させて、若者はダッシュボード下の無線機を引っ張り出した。無線機を片手に持ちながらしゃべり始める。クランプ本人と話しているのだろう。

「あ、はい。いいんですか？ 分かりましたこのまま連れて行きます」

数日前にロアンから、ドアンのことを聞き回っている人物がいることを知らされていた。ロアンは共同生活をしている子どもたちの中で年長の少女で、他の三人の子どもたちの母親的存在だ。一年ほど前から、週末は街の大眾酒場でウェイトレスの仕事をしている。ロアンの話では、酒場の隅の席で瘦せ形で目の大きな三十代から四十代くらいの男と、二十代くらいの若者がドアンの話をしていたという。一度はロアンも声をかけられ、ドアンの所在を知らないか訊かれたこともあったそう。男たちは何度か酒場を訪れていたようで、ロアンは若者が目の大きな男のことをクランプと呼んでいるのを聞いた。ジオンの脱走兵であるドアンに、ジオンの追っ手がいまさら来るとはドアンは考えていなかったが、ロアンはひどく心配していた。

「大丈夫だ」その言葉ひとつではロアンは納得していなかったが、ドアンはそれ以上語らなかった。

トラックが辿り着いたのは、街から離れた海岸線に建つリゾートホテルだった。リゾートホテルと言っても、使用されなくなって数年は経っているようで、豪華な雰囲気は今はなくかなり荒れていた。通された部屋はホテルの最上階にあたる部屋で、中は意外に片づいていてソファが二つ置かれていた。窓側のソファにドアンは座らされた。部屋の中を観察するように見渡すと、こちらを見るように置かれた壁側のソファに、一人の男が座っていた。月明かりの中で二つの大きな目がきわだって見える。それがロアンの言っていた、クランプとい男だとすぐに分かった。

ロアンに聞いていた通りの外見であったし、大きな目が印象的なのも、イメージ通りだった。それに、クランプという名前にドアンは聞き覚えがあった。戦時中、ドズル・ザビ中将直属部隊の“青い巨星”ことランバ・ラル大尉の右腕が、クランプという名であった。そして、ガルマ・ザビの仇討ち部隊として木馬も追撃中に、生死不明になったことも確認済みだ。

「あんたがドアンさんか……」クランプが先に口を開いた。

「そうだ」ドアンがそっけなくそう答えると、即座に若者が近付いてきた。「偉そうにしてんじゃねぞー！」ドアンの肩を上からソファに力任せに押しつける。



「ヨシキ」とクランプはその若者を呼び、たしなめた。そして、ソファからゆっくりと立ち上がり、ドアンに歩み寄る。「あんた、ザクを持っているというのは本当か。持っているのなら力を貸して欲しい」

ドアンは何も答えない。

「クランプさんが訊いてんだぞ、おっさん！」ヨシキはヒステリックに喚き散らす。それとは対照的に、クランプはとても静かで、ただ「教えてくれ」と言うだけだった。クランプの日焼けした細かい顔に、大きな目が鈍く光っているように見える。

数分間の沈黙が続いた。

「俺がどうしてザクが必要か知っているか？」クランプはその鈍く光った大きな目をドアンに向けた。

「さあ、あんた達が俺のことを調べているのは知っていた。だが、ザクが目的だとは知らなかったよ。なぜ戦争が終わった今になって、ザクが必要なんだ」

「星の屑」が始まるうとして……。俺はそれに参加して宇宙に帰るつもりだ。その第一段階としてザクが必要なんだ……。お前のことは調べさせてもらったよ。ザクに乗ったまま、戦いから逃げた脱走兵なんだってな」

「星の屑」。ドアンには聞き覚えのない単語だった。しかし、最近ジオンが何か行動をするために、戦力を集めているのは知っていた。

「残念だったな、ザクはもう無いんだ。連邦の白いモビルスーツが海に沈めちまったよ」

「でたらめ言ってるじゃねぞ。おっさん！」ヨシキがドアンの肩をさらに力任せに押し込んだ。

「でたらめんかじゃない。確かに俺は、浄土作戦中にザクに乗ったまま脱走した。しかし、白いモビルスーツに乗った少年、アムロとか言ったかな。彼は、『戦いから逃れられないのはザクのせいだ』と言って俺のザクを海に投げ捨てちまったんだ」ドアンはあのとときの島での光景を、昨日のことのように思い出していた。

「さつき、お前のことは調べさせてもらったと言ったよな」クランプはゆっくりと窓に向かって歩き出した。

「戦時中はザクを使って、ジオンの追っ手を撃退していたそうじゃないか。確かにお前の乗っていたザクはガンダムに海に沈められてしまったのかもしれない。しかし……。本当にザクは一機だけだったのか？」

ドアンの表情を伺ういながら、クランプは続けた。

「追っ手が乗っていたはずのザクはどうなったんだ？ 何よりお前のザクの補給はどうしていたんだ？ 俺は追っ手のザクから補給をしていたんじゃないかと考えている……。そうだよ、俺はお前がまだ他に、ザクを隠し持っているって実践しているんだ」

窓から広がる海に漁船の灯りが見える。ドアンはボンヤリその灯りを眺めていた。

「クランプさんの質問に答えろよ。おっさん！」ヨシキの腕に更に力が加わる。

「俺はもう戦争をする気はない。ただ静かに子どもたちと暮らしていきたいだけだ。そんな男がザクなど持っている理由がないだろう」ドアンはしれっと嘘をついた。

「質問を変えよう。では何故ここに来た？ お前なら、ヨシキくらいどうにでも出来ただろ」確かにそうだった。ドアンは元々、パイロットになる前は歩兵であったし、格闘技の腕も部隊トップクラスだった。そんなドアンがヨシキに従って、おとなしくクランプの所まで来たのには理由があった。

「クランプさん。あなたに興味があったんだよ」

「俺にか、何故だ？」

「俺のことを調べたなら知っていると思うが、俺は子どもたち4人と島で暮らしている。島での暮らしは苦ではないが、けっして楽なものじゃない。戦争が終わって3年、子どもたちも大きくなった…」

「何の話をしているか。」

「クランプさんに会いに、ここに来た理由だよ」ドアンはヨシキの腕を軽々とはらうと、ソファから立ち上がり大きくのびをした。もともと大柄のドアンが、さらに大きく見える。ヨシキはそのドアンの迫力を恐れたのか、クランプのいる窓際に駆け寄った。ドアンはそんなヨシキは気にせず、胸ポケットからタバコを一本取り出し火をつけた。ゆっくりとタバコを吸いながら、窓と反対のドアの方に向かう。クランプとヨシキは、そんなドアンから目が離せないでいる。

「子どもたちの未来のために必要な物、それは金だ。しかし、元ジオン兵の俺には、街で仕事にありつくには難しい。そこで始めたのが、今の仕事さ」

「どっしりいじつだ…」

「確認をさせてもらう。お前は、ドズル・ザビ中将直属ランバ・ラル隊副隊長クランプ中尉で間違いないか？」ドアンは吸いかけのタバコをクランプに向けた。

「……そうだ」

クランプの返答を聞くと同時に、ドアンがタバコを持ったまま右手をぐるりと回した。すると窓の外に、巨大な赤い球体出現した。クランプが慌てて振り返るとそれは、ザクのモノアイだった。20メートル近い巨人が、海から現れたのだ。さらにザクの頭部に増設されたバルカン砲が、クランプとヨシキを確実に捕らえている。

「ドアン、このザクで共にデラース・フリートに参加し、ともに星の屑を完遂しようではないか」

ドアンはクランプとの距離を一気に詰めると、力任せに殴りつけた。クランプの身体が床に叩き付けられて、一度バウンドした。

「ふざけるな。俺は、もう戦争をする気はないと言ったはずだ。しかし、お前らは戦争を続けようとする。そんなお前からような、ジオンの亡霊どもをかたづけするのが仕事だ」

「ジオンの残党狩り……」ヨシキは半べそをかいている。今までの勢いは、もう遠い昔のことのようだ。

ドアンはポケットから手錠を取り出し、クランプとヨシキを窓枠につないだ。

「クランプを拘束した。帰るぞロアン。クム達が心配しないうちに帰ろう」

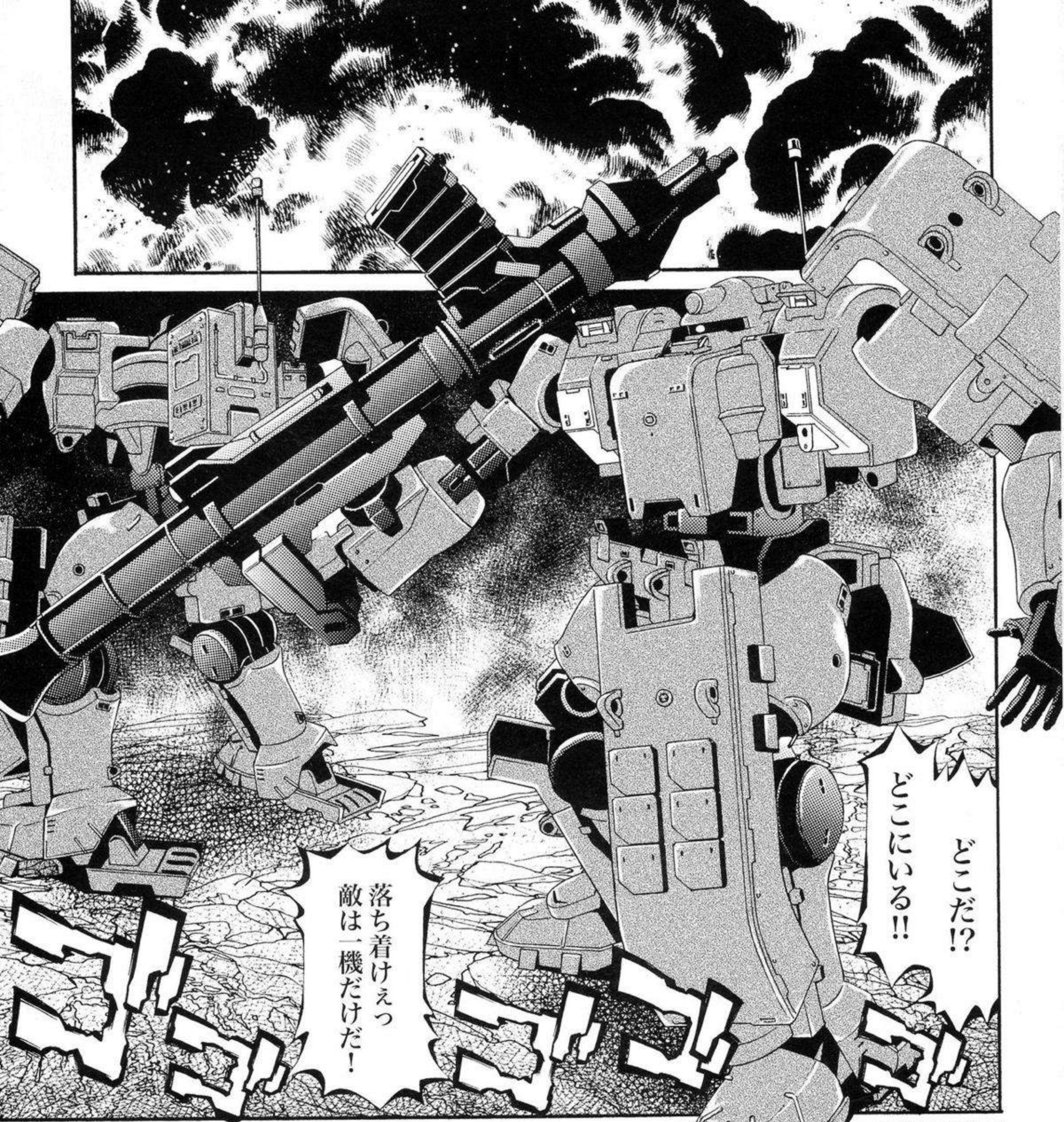
「わかったはドアン。軍には連絡入れておいたから、クランプはそのまま大丈夫よ」

翌年、0083年に勃発するデラース・フリートの反乱。そして、星の屑作戦は、地球連邦政府にジオン残党に対する脅威を再認識させた。そこで、ジャミトフ・ハイマンの提唱により、地球連邦軍の中にジオン残党狩りを目的とした精鋭特殊部隊が設立された。これが「ティターンズ」である。ティターンズの設立により、ドアンのような民間の「ジオンの残党狩り」は姿を消すこととなる。ちなみに、「ティターンズ」の名称はギリシア神話に登場するティターン神族に由来しており、「大地の子ら」という意味である。彼らのエリート意識とアースノイド至上主義とを如実に表しているが、まさに大地の子であるドアンと子どもたちの方が「ティターンズ」の名は似合っているのかもしれない。



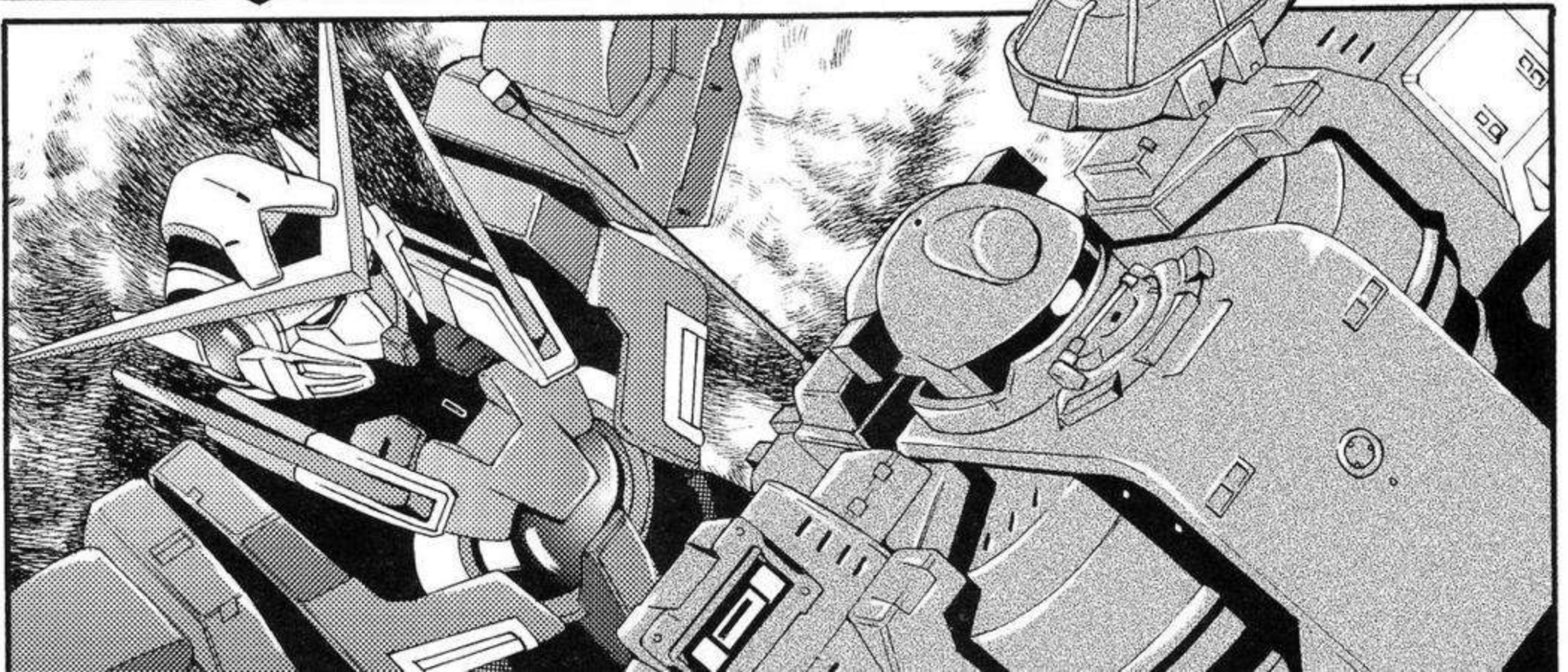
# 鉄の意思





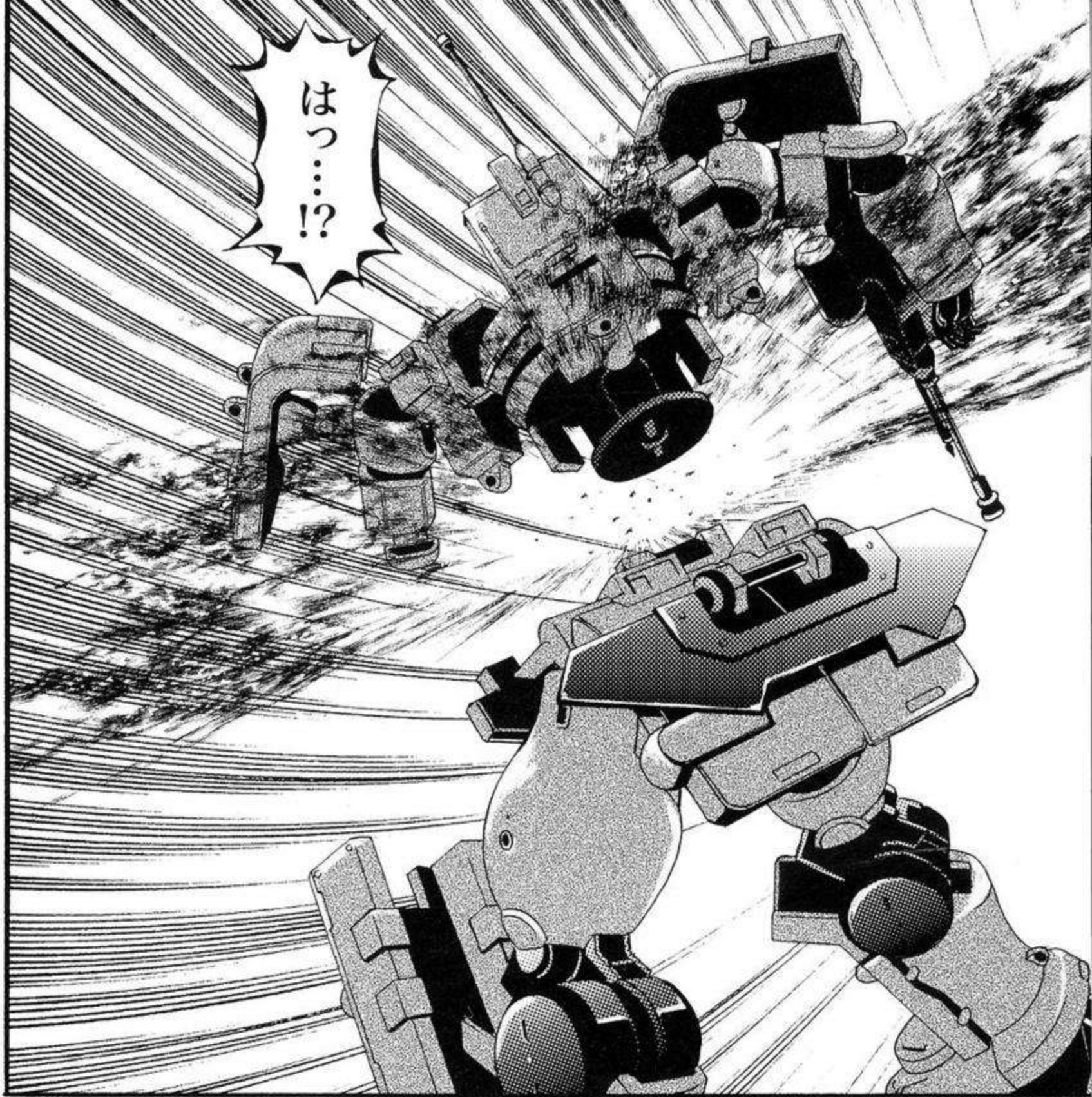
落ち着けえっ  
敵は一機だけだ!

どこだ!?  
どこにいる!!

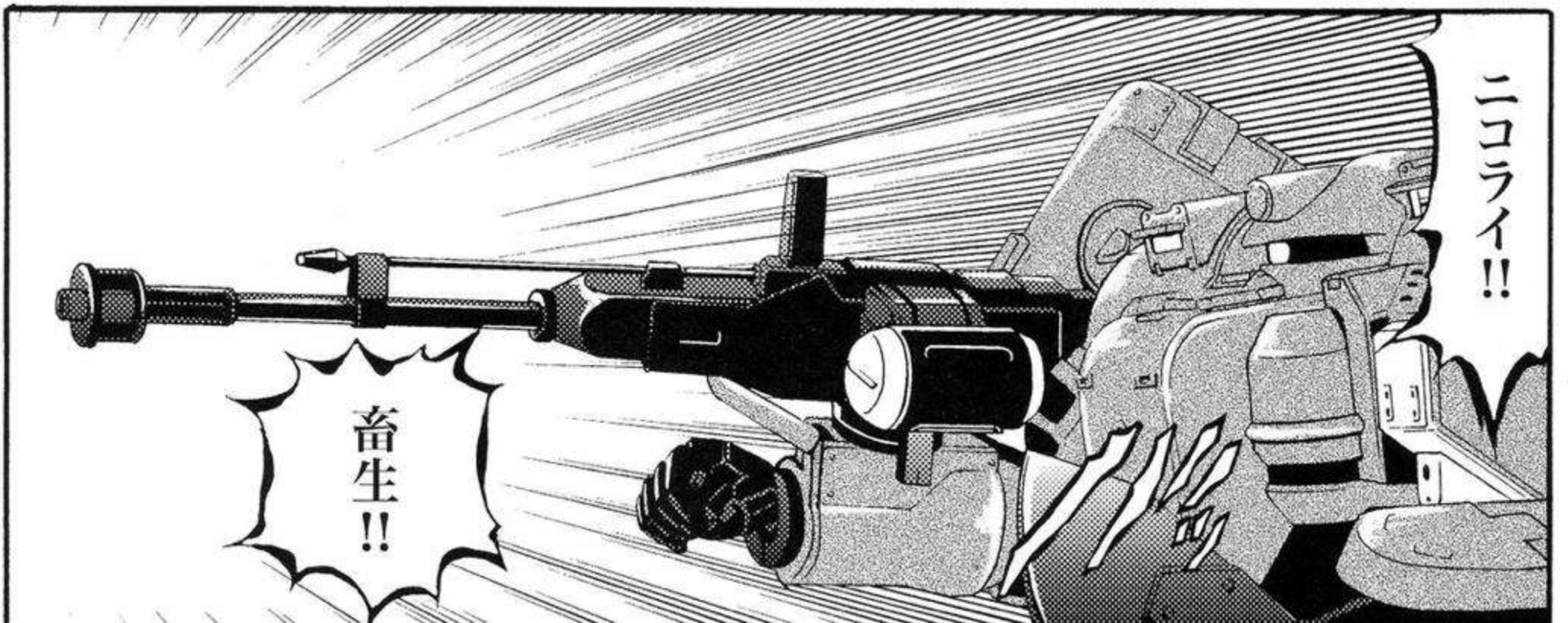




うわあああ  
あああああ

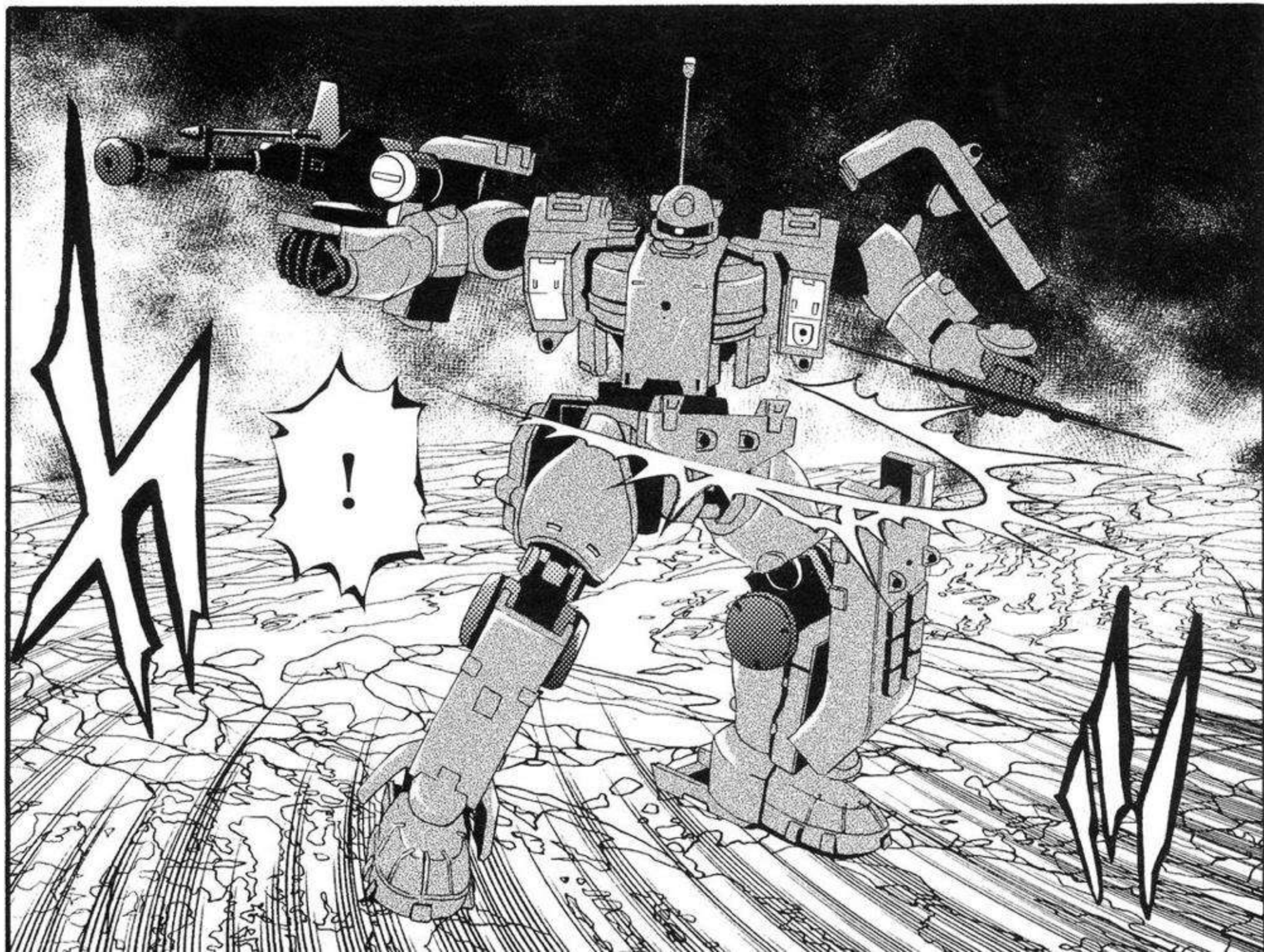
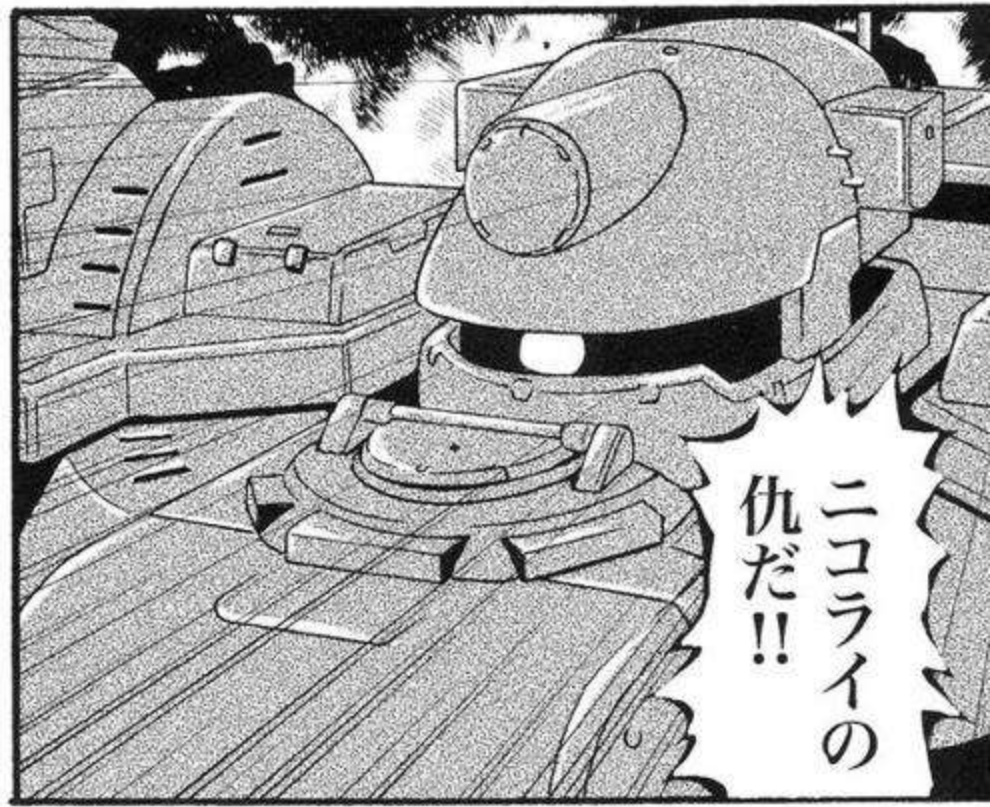


はっ...!?



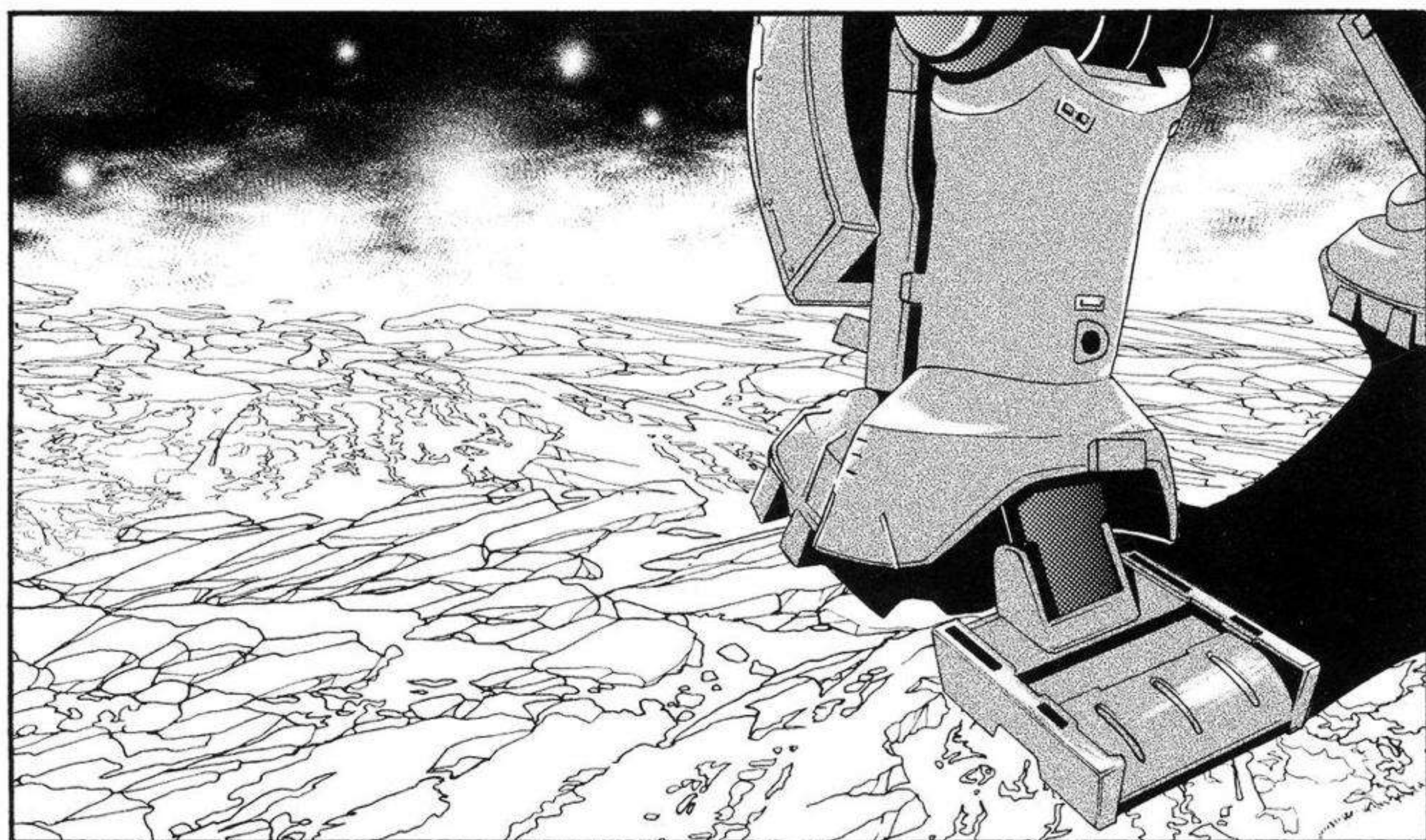
畜生!!

ニコライ!!











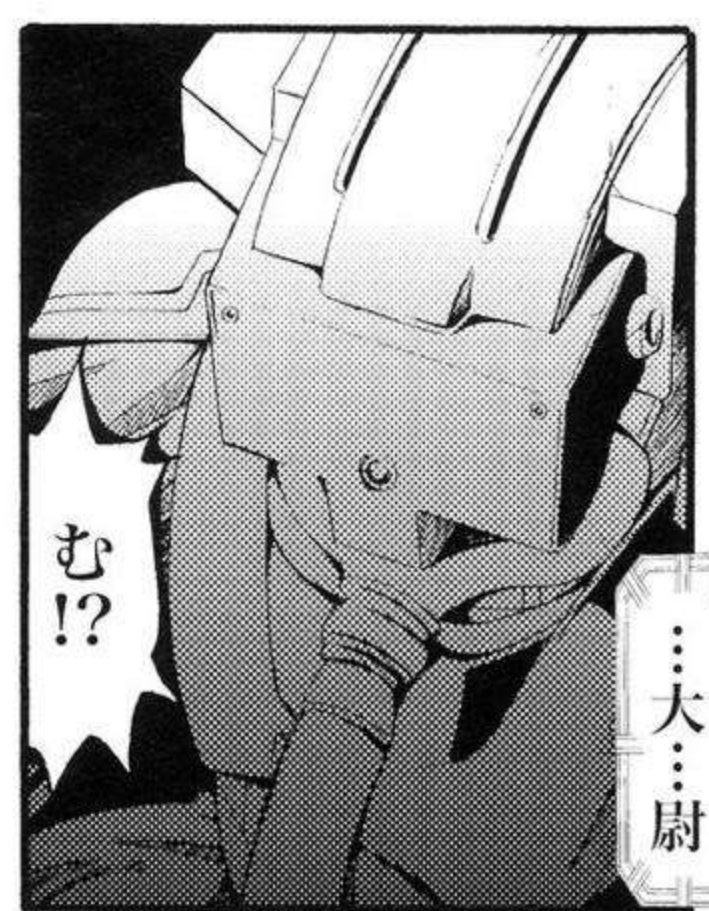
…バカな

たった一機の  
MSに――

十三機もの  
ティエレンが  
全滅させられる  
とは……

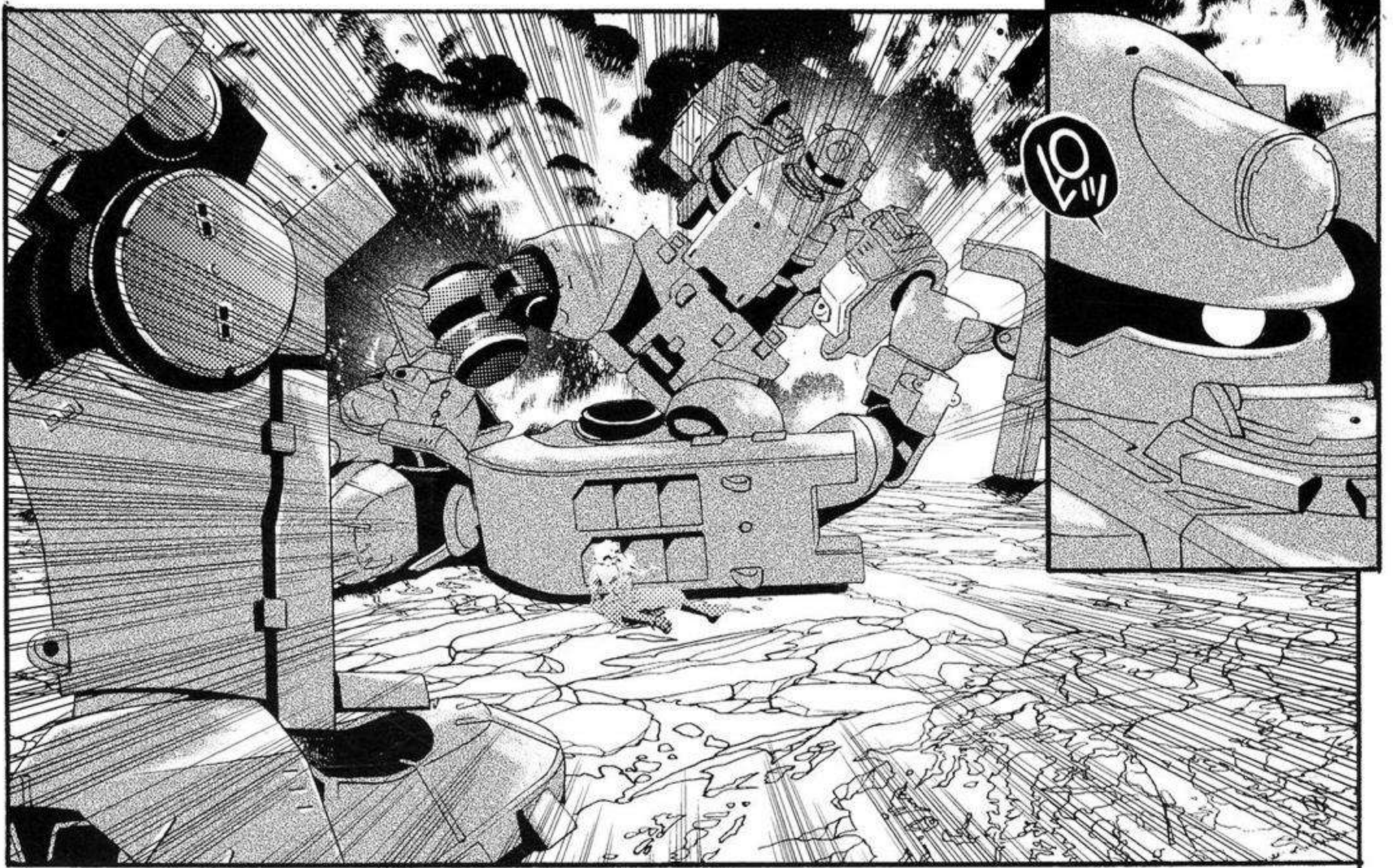


生存者が  
いるのか!!



む!?

…大…尉



無事か!?  
今すぐに

救護班を  
呼んでやる

大尉…



もういい  
話すな!

自分は…  
もう駄目  
です…

…内蔵が  
半分出て  
しまつて…



これだけの  
数がいながら

…申し訳  
ありま…

せん



自分を撃つて  
…下…さい

自分ではもう  
引き金を

引く…力が  
残っていません

…これ以上  
苦しむのは

地獄で…す



ガンダム!!

志半ばにして  
散つて逝つた  
英霊達が

私の鉄の意思と  
一つとなり

必ずや貴様を  
地獄に葬るで  
あろう!!

# メタバオ茶異臭騒ぎ G-PROJECT 04

takeboh1015jp@yahoo.co.jp



発行人  
いただき頂上

協力  
カキコ ヒト氏

印刷  
栄光印刷様

発行  
2007年8月16日